

知的障がい者フットサル日本代表候補合宿 トレーナー報告

2023.8.11～8.13.

作成者：島田 靖丈 （トレーナー）

- ・今回の合宿では病院受診をするような外傷は起きなかった。
- ・今合宿では、お盆の時期の開催で今年の猛暑による体調不良者が心配されたが、JFA 夢フィールドの施設を使わせて頂き、その素晴らしい環境の良さのおかげで、体調不良者が出なかったのは本当にありがたかった。氷を自由に使わせて頂けた事、体育館が空調完備だった事、利用者と被らない時は浴室を使え、ジャグジーや水風呂を自由に使える環境は、選手の疲労を軽減させてくれた要因となったと考える。また、集中力の欠如も少なかったように思え、連日の練習がより質の高い物になった。

今回の外傷に関しては、サーフェスが若干止まりやすかった事で、慣れていない選手の中には、膝の既往歴がある選手が、いつものサッカーの時以上にケガに対する恐怖感を感じていたり、軸足である左足の下腿部の疲労が蓄積し、肉離れまでは起こさなかったが、痛みを訴える選手がいた。なかなか現在の日本で、ここまでしっかりした環境でフットサルをできることが少ないので仕方がないが、このような環境やフットサル自体を行える環境が知的障がいのある選手に増えて行って欲しいと願う。

実際に、今回の合宿で戸西監督が選手に「挑戦」することを求めていたことが響いたのか、合宿後に社会人のチームの練習に参加するアクションを自ら起こした選手が数名いたようである。ここ数年で社会人リーグに所属する選手の数は増えてきているし、最終日の TRM では勝利をするなど、実力は確実に上がってきていると思うので、これを次回の合宿まで継続してほしいと願う。

以上、合宿での報告とする。